

# 月報 シオン山

2025年9月7日発行 (No499)

\*\*\*\*\*

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel (093) 561-0772 Fax (093) 561-0760 E-mail: bapshion@eagle.ocn.ne.jp

.....

## 【月間聖句】

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

(ローマの信徒への手紙12章15節)

## 「心に残る歌、語り継ぐ福音」

田中 由紀子

### 「歌」がもたらすもの

皆さんには、幼い頃の思い出として心に残っている歌や音楽、あるいは物語はありますか。私自身、この夏に一つの歌をめぐる深く考えさせられる出来事がありました。そこから「讃美歌」の役割についても思いを寄せるようになりました。

この夏、私の心を占めていたのは、母がよく歌ってくれていた子守歌のことです。その歌は、母によれば、昭和30年当時のNHKのラジオやテレビの挿入歌ではないかとのことでした。歌詞はどこか物悲しく、それでいて美しい旋律をもつもので、私が物心つく頃になっても母が歌っていたのをよく覚えています。

その母が、この春に脳梗塞を発症し、運動機能や記憶に障害が出始め、言葉を発することも難しくなってきました。私も毎日病院に出向いて励ましていますが、中々うまくいきません。しかし驚くべきことに、「歌」については、記憶が鮮明で、片手で拍子を取りながら歌うこともできることが分かりました。その子守歌も、歌詞（以下）を全て聞き取ることが出来ました。それはまるで、歌が母にとって安心感をもたらし、親子の絆を繋ぎとめようとしているかのように思えます。

♪ 題名のわからない歌 ♪



- |                                  |                                        |
|----------------------------------|----------------------------------------|
| ① 子供のいないちっちゃな街が<br>遠いどこかにあったんだって | ④ バナナが熟れても真珠が取れても、<br>子供がいなけりやつまんないだって |
| ② 男はみんな お船に乗って<br>子供を探しに行ったんだって  | ⑤ 空っぽになったちっちゃな街を<br>月が留守番してたんだって       |
| ③ 女はみんな お馬車に乗って<br>子守唄歌いに行ったんだって |                                        |

そこで、私はこの「歌」の出どころを知りたくなりました。この歌を通して、母の思い出をもう少し引き出せないかと思ったからです。まず、インターネットを通じて調査してみました。すると、次のような興味深い指摘に出会いました。「5 番まで揃っているのは明らかに『童謡』作品である」「子ども不在の寂しさ、大人が探しに出る姿、自然、宝物、月などに寓話的なメッセージなどが込められている」また「歌詞の語尾の『～だって』が子守歌の要素を強めている」とのことでした。

しかし、直接問合わせた「Yahoo 知恵袋」からの回答はゼロ。NHK からも「不明」との返答で、私の夏の自由研究もそこまでとなりました。

しかし、改めて「歌」には人の心に深く根づき、時を超えて、思い出や安心を呼び覚ます力があるのだと考えさせられた出来事でした。

## 教会と讃美歌

では、教会にとっての音楽、讃美歌とはどのようなものでしょうか。

音楽は心に寄り添い、安心感を与えてくれるものです。讃美歌は特に、信仰の告白であり祈りであり、また慰めと励ましの源でもあります。

私がかつて勤めていた西南女学院では、卒業後しばらくしてから「讃美歌を思い出すことがある」と話してくれる卒業生が少なくありませんでした。また、教会の信徒の中には「讃美歌によって心を動かされ信仰へ導かれた」と証しする方々もおられます。讃美歌には、単なる歌を超えた霊的な力が宿っているのだと思います。

西南女学院や、シオン山幼稚園、また愛の園保育園でも、子どもたちは日々讃美歌に触れています。その歌は、子どもたちの育ちの中で、やがて人生の歩みの中で思い出され、信仰へと結びつくきっかけになるかもしれません。讃美歌を通しての伝道の力を、改めて真摯に考えていきたいと思っています。

## 結びに

母の歌う子守歌の思い出から始まったこの出来事は、やがて「歌」そのものの意味を問い直す旅となりました。

歌は人の心に深く残り、時を超えて働きかける力を持っています。そして教会における「讃美歌」は、神と人とを結ぶ大切な賜物です。私自身、その恵みに感謝しつつ、これからも皆様と共に歌い続けていきたいと思っています。

## クリスマスに向けて

ご存じの通り、私は現在、卒業生のためのハンドベルクワイアの活動を続けています。設立当初はメンバーにも恵まれ、人形劇で聖書の物語を上演するなど、ハンドベルの音楽とともに神様の愛を伝えてきました。しかし年々状況が変わり、準備や人手の面で難しさも感じるようになっていきます。

そこで今年のクリスマスには、教会の有志の皆さんと力を合わせ、もう一度新しい形でこの働きを実現させたいと願っています。ハンドベルの音色はもちろん、讃美歌や物語を通して、子どもから大人まで多くの方に福音の喜びを届けたいのです。どんな小さなお手伝いでも構いません。是非ご協力下さい。よろしくお願い致します。